

---

---

新ごみ処理施設整備・運営事業

落 札 者 決 定 基 準

---

---

令和5年5月

大牟田・荒尾清掃施設組合



# 新ごみ処理施設整備・運営事業 落札者決定基準

## 目 次

---

第1章 落札者選定の手順.....	1
1 落札者決定基準の位置づけ.....	1
2 選定の手順.....	1
第2章 参加資格確認.....	4
1 参加資格要件の項目.....	4
第3章 提案審査.....	4
1 提案書の基礎審査.....	4
2 非価格要素の定量化審査.....	4
3 開札及び入札価格の確認.....	6
4 入札価格の定量化審査.....	7
5 総合評価値の算定方法.....	7
第4章 非価格要素の定量化審査において審査する点.....	8
第5章 提案書に関するヒアリング.....	10
第6章 審査結果等の公表.....	10

---



## 第1章 落札者選定の手順

### 1 落札者決定基準の位置づけ

新ごみ処理施設整備・運営事業（以下、「本事業」という。）を実施する事業者は、エネルギー回収型廃棄物処理施設の設計・建設及び運営に係る専門的な知識やノウハウ（管理運営能力等）を有することが必要となるため、落札者の決定に当たっては、入札価格だけでなく、提案内容によって落札者を決定する総合評価一般競争入札を採用する。

この「新ごみ処理施設整備・運営事業 落札者決定基準」（以下、「落札者決定基準」という。）は、大牟田・荒尾清掃施設組合（以下、「本組合」という。）が本事業を実施する落札者の募集・選定を行うに当たって、入札に参加しようとする者を対象に交付する入札説明書と一体のものである。

落札者決定基準は、総合評価一般競争入札により落札者を選定するに当たって、要求水準書等の内容を踏まえ、入札参加者から提出された入札提案書類を客観的に評価する基準及び方法等を示し、入札参加者の行う提案に具体的な指針を与えるものである。

### 2 選定の手順

本事業における事業者の選定は、総合評価一般競争入札方式に基づき、図1に示す手順で実施する。

#### (1) 参加資格確認

本組合は、参加資格確認申請書類の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件（以下、「参加資格要件」という。）を満たしていることを確認する。なお、参加資格要件を満たしていることが確認できない場合は失格とする。

#### (2) 提案審査

##### ア 提案書の基礎審査

「大牟田・荒尾清掃施設組合一般廃棄物処理施設整備事業者選定委員会」（以下、「委員会」という。）は、提案書（技術提案書、施設計画図書、添付資料、提案図書概要版）に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認する。基礎審査項目について1項目でも満たさないことが確認された場合は失格とする。

##### イ 技術（非価格）要素の定量化審査

委員会は提案書に記載された内容について、落札者決定基準に示す得点化基準に従って評価する。

##### ウ 入札価格の確認

本組合は、入札書に記載された入札金額が入札書比較価格を超えていないことを確認する。この結果、入札金額が入札書比較価格を超える場合は失格とする。

なお、最低制限価格は設定しない。

エ 入札価格の定量化審査

委員会は入札価格について、落札者決定基準に示す得点化基準に従って評価する。

オ 総合評価値の算出

委員会は、技術（非価格）要素の定量化審査及び入札価格の定量化審査における得点を合計し、総合評価値を算定する。

カ 最優秀提案者の選定

委員会は、総合評価値が最も高い提案を行った入札参加者を最優秀提案者として選定する。

総合評価値が同点の場合は、技術（非価格）要素点の高い入札参加者を最優秀提案者として選定する。技術（非価格）要素点が同点の場合は「くじ引き」とする。

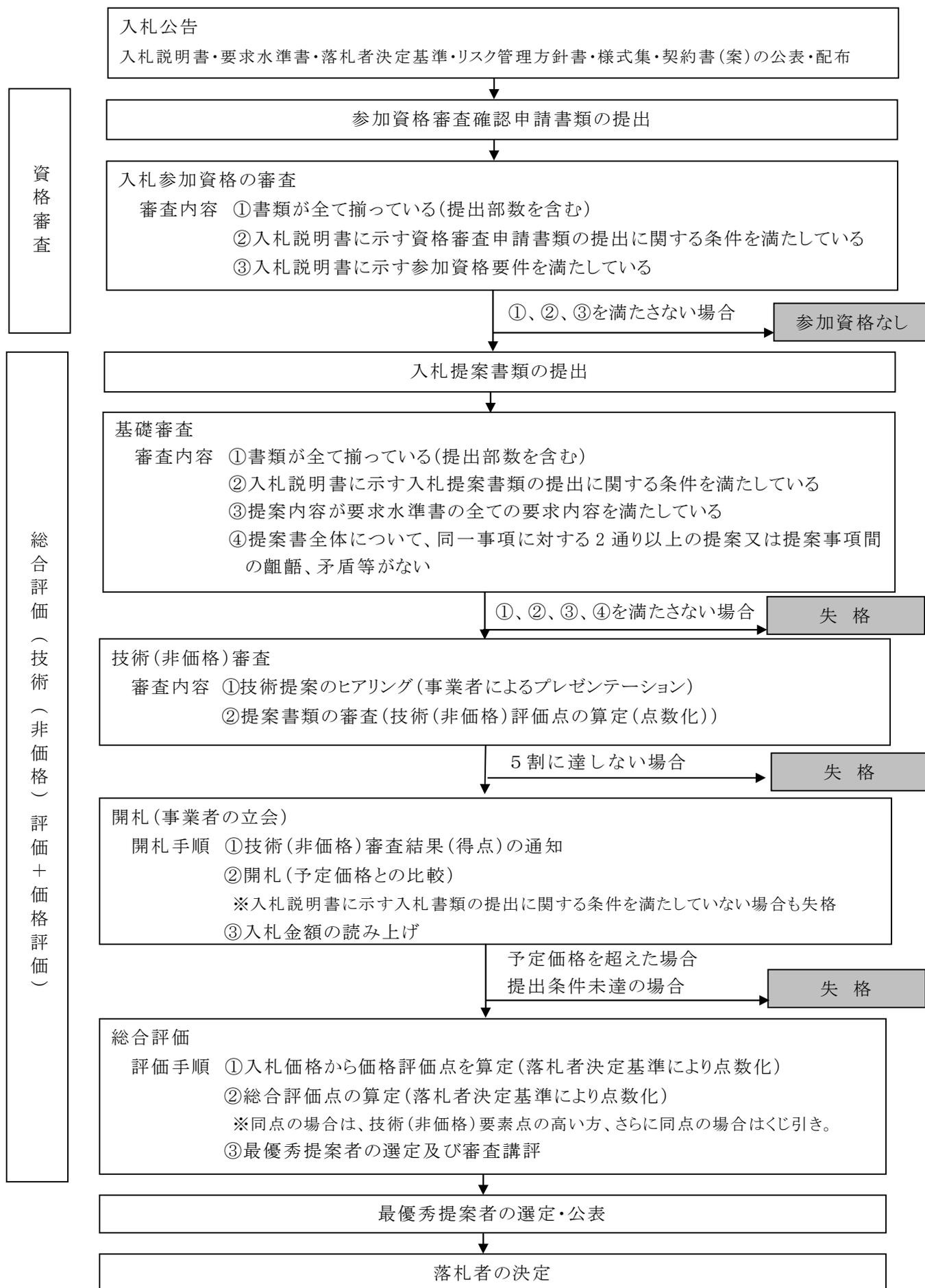
キ 入札参加者が1者であった場合の取扱い

入札参加者が1者であった場合も落札者決定基準に基づき審査を行う。

ク 落札者の決定

本組合は、委員会の審査結果を踏まえ、落札者を決定する。

図1 落札者決定の手順



## 第2章 参加資格確認

### 1 参加資格要件の項目

参加表明書と同時に提出される参加資格確認申請書から、次の事項を確認する。

- ア 書類が全て揃っている（提出部数を含む）こと。
- イ 入札説明書に示す資格審査申請書類の提出に関する条件を満たしていること。
- ウ 入札説明書に示す参加資格要件を満たしていること。

参加資格要件の確認基準日は、参加資格確認申請書受付最終日とする。

詳細については、入札説明書「第3章 入札参加に関する条件等」及び「第6章 提出書類」を参照のこと。

## 第3章 提案審査

### 1 提案書の基礎審査

提案書に記載された内容が、次の基礎審査項目を満たしていることを確認する。

- ア 書類が全て揃っている（提出部数を含む）こと。
- イ 入札説明書に示す事業提案書類の提出に関する条件を満たしていること。
- ウ 提案内容が要求水準書の全ての要求内容を満たしていること。
- エ 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

詳細については、入札説明書「第6章 提出書類」を参照のこと。

### 2 非価格要素の定量化審査

提案書に記載された内容について、次の審査方法に従い定量化する。

#### (1) 定量化審査の審査項目と配点

定量化審査における審査項目と配点については、本組合が本事業に対して民間の創意工夫の導出を期待する度合いにより設定した。したがって、審査項目は、本組合が民間事業者に創意工夫を期待している事項であり、配点はその重みを示すものである。

審査項目及び配点については、次のとおりである。なお、各審査項目における審査基準等の詳細については、「第4章 非価格要素の定量化審査において審査する点」を参照のこと。

表1 定量化審査の審査項目と配点

大項目		中項目	小項目	配点	
施設整備基本方針の実現	長期的に安定した処理が可能な施設	施設性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ焼却システムの技術的特徴</li> <li>・ごみ処理の性能曲線とごみ量、ごみ質変動への対応</li> </ul>	4	1 2
		安定稼働の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要設備のメンテナンス方法</li> </ul>	3	
		長寿命化の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長寿命化の実現（主要設備の耐用年数と修繕計画等）</li> <li>・塩害対策</li> <li>・次期事業者への引継ぎ計画</li> </ul>	5	
	環境に配慮した低炭素社会に貢献する施設	公害防止基準の確実な遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排ガスの基準を満足するための取組み</li> <li>・騒音、振動、悪臭対策（設計・施工時及び運営時）</li> <li>・工事中の騒音、振動、粉塵、濁水等防止対策</li> </ul>	3	8
		環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化対策</li> <li>・雨水利用量と具体策</li> <li>・プラント排水の下水道放流量と削減策</li> <li>・焼却残渣量の削減</li> <li>・建設廃棄物の削減</li> </ul>	5	
	環境の大切さを学ぶことができ、次世代へつなげる施設	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からの信頼、安心感の提供</li> </ul>	3	8
		環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育設備の設置内容と更新計画</li> <li>・環境学習の支援メニュー</li> </ul>	5	
	経済性やエネルギーの有効利用に優れた施設	エネルギーの有効活用等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ処理に伴うエネルギー回収率、年間売電量</li> </ul>	4	4
	災害に強く地域防災拠点となる施設	災害に強い強靱な廃棄物処理システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震・台風・浸水・火事・落雷対策と設計への反映</li> </ul>	3	6
		災害復旧支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本施設の復旧計画</li> <li>・災害発生時の協力内容</li> <li>・災害廃棄物受け入れ提案</li> </ul>	3	
事業計画	安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施工時の品質管理・安全管理</li> <li>・運営時の安全確保</li> </ul>	3	2 2	
	デザイン計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意匠・デザイン計画</li> <li>・空間・緑化計画</li> <li>・維持計画や修繕計画</li> </ul>	3		
	配置・動線計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全配置・動線計画</li> </ul>	3		
	実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員配置及び事業の実施体制（代表企業以下の役割と責任分担及び通常時並びに緊急時の連絡体制等）</li> </ul>	4		

		・ 運転管理計画	
	事業収支計画	・ 安定収支計画（安定化の仕組み）	3
	地域貢献	・ 地元企業の活用、資材調達への協力 ・ 地元雇用 ・ 地域への社会貢献	6
合計			60

(2) 非価格要素の得点化方法

ア 提案を求めている審査項目においては、表2に示す5段階評価による得点化方法により得点を付与する。

イ 各審査項目の評価点については、各委員が個別に行った評価の平均値とする。なお、平均値を求める際は、小数第3位を四捨五入した値とする。

ウ イの結果をもとに、各入札参加者の得点の合計を算出する。

エ 技術(非価格)要素点が5割に達しない場合、落札者として選定しない。

表2 技術提案に関する得点化方法

評 価	説 明	点 数
A	特に優れている	配点×1.0
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.5
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	要求水準書を満たす程度である	配点×0

3 開札及び入札価格の確認

提出された入札金額が入札書比較価格を超えていないことを確認する。なお、入札価格の確認のための開札は、非価格要素の定量化審査終了後、入札説明書に定めた方法により実施し、入札金額が入札書比較価格を超えていない提案のみ入札価格の得点化を行うこととする。

なお、入札書比較価格は、総事業費であり、設計・施工業務に対する対価、運營業務に関する対価を個別には設定していない。

#### 4 入札価格の定量化審査

##### (1) 価格点の得点化方法

入札価格においては、入札価格（様式集、様式第 14 号に記載する金額をいう。）について、次の算定式により得点を付与する。得点は、小数第 3 位を四捨五入した値とする。  
なお、定量化限度額は、開札時に公表する。

入札価格の得点算定式
○最低入札価格 > 定量化限度額の場合
$\left( \begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \end{array} \right) = 40 \text{ 点} \times \left( \frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}} \right)$
○最低入札価格 ≤ 定量化限度額の場合
$\left( \begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格評価点} \end{array} \right) = 40 \text{ 点} \times \left( \frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}} \right)$
※1 定量化限度額：予定価格（入札書比較価格予定価格調書の比較価格）×○%
※2 最低入札価格：全入札参加者の入札価格のうち、最も低い価格。 ただし、失格になった者の入札価格を除く。
※3 入札価格が定量化限度額より低い場合、価格点は 40 点を上限とする。

#### 5 総合評価値の算定方法

「2 非価格要素の定量化審査」、「4 入札価格の定量化審査」により算出した得点を合計して、各入札参加者の総合評価値を算出する。

総合評価値の算定式
$\left( \begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価点} \\ \text{(100 点)} \end{array} \right) = \left( \begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{技術 (非価格) 点} \\ \text{(60 点)} \end{array} \right) + \left( \begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{価格点} \\ \text{(40 点)} \end{array} \right)$
※ ( )内は各得点の配点を示す。

第4章 非価格要素の定量化審査において審査する点

委員会では、各審査項目について、審査基準に基づき審査を行い、その内容に応じて、5段階評価により得点を付与する。なお、各項目については、審査の視点に対して、各入札参加者の過去の経験等を踏まえた、より実現性の高い提案が望ましいものとする。

表3 非価格要素の定量化審査における審査の視点

項目	大項目	中項目	小項目	提案書記載要領	評価の視点	配点	
技術（非価格）審査	設 長 期 的 に 安 定 し た 処 理 が 可 能 な 施	施設性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>【建】 ゴミ焼却システムの技術的特徴</li> <li>【建/運】 ゴミ処理の性能曲線とゴミ量、ゴミ質変動への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【A4判2頁以内】</li> <li>技術的特徴、安定処理の仕組み、安全設計・フェールセーフ設計等</li> <li>ゴミ処理の性能曲線</li> <li>ゴミ量、ゴミ質変動への対応策と操炉計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ焼却システムの信頼性 等</li> <li>ゴミ量、ゴミ質変動への柔軟性 等</li> </ul>	4	
		安定稼働の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>【建/運】 主要設備のメンテナンス方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【A4判2頁以内】</li> <li>設備構成及び設備のメンテナンス方法（予備等の確保、汎用品の活用の方等を含む）</li> <li>トラブルが生じた場合でも継続処理が可能な方策（能力、バッファの考え方、支援体制等を含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンテナンス方法、火災・爆発防止対策、トラブルの未然防止対策及び事後対策の実現性、信頼性 等</li> </ul>	3	
		長寿命化の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>【建/運】 長寿命化の実現（主要設備の耐用年数と修繕計画等）</li> <li>【建】 塩害対策</li> <li>【運】 次期事業者への引継ぎ計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【A4判2頁以内】</li> <li>30年間の安定稼働を見据えた点検修繕計画（主要機器の保全方法や診断項目、評価方法、診断頻度、目標耐用年数等）</li> <li>塩害対策の工夫</li> <li>事業終了時の具体的な引継ぎ計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長寿命化の実現に対する具体的工夫の独自性、期待度 等</li> <li>特に21年目以降の焼却施設における耐久性、計画の実現性 等</li> <li>塩害対策の具体的工夫、長寿命化の実現性 等</li> <li>円滑な引継ぎ計画の実現性、妥当性 等</li> </ul>	5	
	す 環 境 に 配 慮 し た 低 炭 素 社 会 に 貢 献	公害防止基準の確実な遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>【建/運】 排ガス基準を満足するための取組み</li> <li>【建/運】 騒音、振動、悪臭対策（設計・施工時及び運営時）</li> <li>【建】 工事中の騒音、振動、粉塵、濁水等防止対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【A4判2頁以内】</li> <li>【数値】 排ガス基準値（停止基準（管理基準値）、要監視基準値、運転基準値）</li> <li>【数値】 騒音、振動、悪臭等の目標値</li> <li>各種基準値を超過させないための手法と各種基準値を超過した場合の具体的な対処方法</li> <li>工事中の騒音、振動、粉塵、濁水等の防止対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害防止基準を満足するための方策についての実効性期待度 等</li> <li>さらなる環境負荷の低減に向けた要監視基準値、運転基準値の設定と監視方法、超過時の対応の実効性期待度 等</li> <li>運転監視方法に対する計画性と妥当性の期待度 等</li> <li>工事中の騒音、振動、粉塵、濁水等防止対策の妥当性、信頼性 等</li> </ul>	3	
		環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>【建/運】 地球温暖化対策</li> <li>【建/運】 雨水利用量と具体策</li> <li>【建/運】 プラント排水の下水道放流量と削減策</li> <li>【建/運】 焼却残渣量の削減</li> <li>【建】 建設廃棄物の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【A4判2頁以内】</li> <li>温室効果ガスの削減、省エネ及び環境負荷の低減、緑化施策等に対する具体的工夫</li> <li>【数値】 温室効果ガス発生量</li> <li>【数値】 雨水利用量</li> <li>【数値】 下水道放流量</li> <li>焼却残渣量の削減対策</li> <li>建設廃棄物の削減対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種数値提案の定量評価</li> <li>省エネ、環境負荷の低減に対する具体的工夫の独自性、期待度 等</li> <li>焼却残渣量削減のための具体的工夫 等</li> <li>建設廃棄物削減のための具体的工夫 等</li> </ul>	5	
		環境の大切さを学ぶことができて	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>【建/運】 住民からの信頼、安心感の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【A4判2頁以内】</li> <li>環境保全、環境負荷低減等の状況をわかりやすく情報提供できる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼、安心を得るための具体的工夫の期待度 等</li> </ul>	3
		環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>【建/運】 教育設備の設置内容と更新計画</li> <li>【運】 環境学習の支援メニュー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【A4判2頁以内】</li> <li>環境学習イメージ図とその工夫点</li> <li>施設見学支援の具体的な実施計画 ※施設見学を行うことにより、小学生が環境学習の一環として高い学習効果を得られるための工夫 ※見学者がSDGsの考え方やカーボンニュートラル、資源循環型社会の必要性を学び、体験や体感できるコーナーや説明用装置の設置 ※大牟田市、荒尾市が実施する減量や再資源化に関する取り組みとの連携、支援策</li> <li>環境学習設備の具体的更新計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習効果の期待度 等</li> <li>環境学習設備の具体的更新計画の妥当性 等</li> </ul>	5	
							8
							12

項目	大項目	中項目	小項目	提案書記載要領	評価の視点	配点	
技術 (非価格) 審査	経済性やエネルギーの有効利用に優れた施設	エネルギーの有効活用等	・【建/運】 ゴミ処理に伴うエネルギー回収率、年間売電量	【A4判2頁以内】 ・【数値】 エネルギー回収率、年間発電量、年間買電量、年間売電量 ・エネルギー回収率、年間売電量を増加するための具体的工夫（操炉計画含む）	・エネルギー回収率及び年間売電量、年間買電量の定量評価 ・エネルギー回収率、年間売電量を増加するための具体的工夫の独自性、期待度 等	4	4
		災害に強い廃棄物処理システム	・【建/運】 地震・台風・浸水・火事・落雷対策と設計への反映	【A4判2頁以内】 ・概略建築物構造図（構造別（S造、RC造、SRC造等）の色塗り分け断面図） ・地震・台風・浸水・火事・落雷の具体的対策 ・見学者及び作業員の緊急避難計画	・地震・台風・浸水・火事・落雷対策の妥当性 等 ・緊急避難計画の妥当性 等	3	6
	災害復旧支援	・【建/運】 本施設の復旧計画 ・【建/運】 災害発生時の協力内容 ・【建/運】 災害廃棄物受け入れ提案	【A4判2頁以内】 ・本施設の具体的な復旧計画（BCP計画作成の考え方を含む） ・災害発生時の具体的な協力内容（運営事業者の構成員等による総合支援内容等） ・災害廃棄物を円滑に処理するための具体的な受入、処理計画	・災害復旧に対する貢献度、実現性、期待度 等	3		
	事業計画	安全確保	・【建】 施工時の品質管理・安全管理 ・【運】 運営時の安全確保	【A4版2頁以内】 ・概略工事工程表、施工計画、仮設計画、重機配置計画、資材置場など ・施工時の品質管理・安全管理 ・運営時の安全管理	・概略工事工程、狭小敷地かつ既存施設へのゴミ受け入れに配慮した施工計画等の妥当性 等 ・安全施工に対する妥当性 等 ・運営時の安全管理に対する妥当性 等	3	2 2
		デザイン計画	・【建】 意匠・デザイン計画 ・【建】 空間・緑化計画 ・【運】 維持計画や修繕計画	【A4判2頁、もしくはA3判2頁以内】 ・設計/提案コンセプト ・イメージ図（パース、鳥瞰図等）と工夫点 ・周辺環境への具体的な配慮事項 ・外観の維持計画や修繕計画	・外観デザインの親近感、独自性 等 ・外観の維持計画や修繕計画の実現性、期待度 等 ・地域の景観との調和、周辺環境との親和性 等	3	
		配置・動線計画	・【建/運】 安全配置・動線計画	【A4判2頁、もしくはA3判1頁以内】 ・概略の配置・動線計画図と工夫点 ・待機スペース、歩車分離計画 ・点検修繕上の工夫点（メンテナンススペースや機器配置、動線計画を含む）	・安全な配置・動線計画の実現性、期待度 等 ・メンテナンススペースや機器配置、動線計画の妥当性 等	3	
		実施体制	・【建/運】 人員配置及び事業の実施体制（代表企業以下の役割と責任分担及び通常時並びに緊急時の連絡体制等） ・【運】 運転管理計画	【A4判2頁以内】 ・人員配置及び組織体制図、役割分担 ・セルフモニタリング内容 ・通常時、緊急時、トラブル時（災害時を除く）の組織的対応（運営事業者に対するサポートと協議ルール等）	・人員配置及び組織体制、役割分担、具体的な運転管理方法の妥当性 等 ・セルフモニタリング内容の妥当性、期待度 等 ・通常時、緊急時、トラブル時の組織的対応の期待度 等	4	
		事業収支計画	・【運】 安定収支計画（安定化の仕組み）	【A4判1頁以内】 ・【数値】 資本金、保険、株主からの融資 ・事業収支計画表 ・資本金、保険、株主からの融資、利益等の考え方 ・運営事業者と出資会社の協力体制（通常時、経営悪化時等の協力体制）	・資本金、保険、株主からの融資、利益等の考え方のバランス性 等 ・安定収支に対する妥当性 等	3	
		地域貢献	・【建/運】 地元企業の活用、資材調達への協力 ・【運】 地元雇用 ・【建/運】 地域への社会貢献	【A4判2頁以内】 ・【数値】 地元企業への発注金額 ・【数値】 地元雇用率 ・上記数値提案を実現するための具体的取組内容 ・雇用者の教育計画/資格取得支援計画 ・地域への具体的な社会貢献策（情報発信、行事参加、その他社会貢献内容）	・地元企業への発注金額及び地元雇用率の定量評価 ・数値提案を実現するための具体的取組内容の実現性等 ・雇用者教育等の期待度 等 ・地域への社会貢献に対しての実現性、期待度 等	6	

※小項目の【建/運】は設計・施工業務及び運営業務を通じた提案を求めるもの、【建】、【運】はそれぞれ設計・施工業務からの提案を求めるもの、運営業務からの提案を求めるものを指す。

## 第5章 提案書に関するヒアリング

委員会は、提案書の審査及び評価を行うにあたり入札参加者に対し、ヒアリングを行う。  
なお、ヒアリングについては、入札参加者の独自のノウハウに関する内容も含むことが想定されることから、非公開のもとで実施することを予定している。

ヒアリングの開催要領の詳細は、別途通知する。

## 第6章 審査結果等の公表

審査結果等については、公表を行うとともに、入札参加者においては個別に通知する。